

国分寺中学校区

【目指す子ども像】

- 学び合い高め合う子ども
- 主体的に人や社会に関わる子ども
- 心身共に健康で自分を大切に使う子ども

【実践研究課題】

学び合いを深める聴く・伝える・関わる力の育成

各部会の取組

<学習指導部会学力向上チーム>

【児童生徒の実態】

- ・課題にまじめに取り組むことができるが、自分で課題を設定することについては、個人差がある。
- ・読書量に個人差が大きく、読書習慣が身に付いていない児童生徒がいる。

【部会のねらい】

- ・「家庭学習協調週間」「家読」を通して、家庭学習の方法や生活習慣の見直しを保護者に啓発し、家庭学習の充実を図る。
- ・自分で設定した課題に取り組むことにより、自己肯定感や主体的に学習する態度を高め、学力の向上につなげていく。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺中学校の実力テスト(7/1(金)12/2(金))に合わせて「家庭学習協調週間」を設定する。 ・「家庭学習協調週間」を小中同時に行うことで、家庭全体で取り組む機会とする。 ・家読を実施し、読書活動の活性化につなげる。 ・自学ノートのコピーをクラス1点集め、掲示する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実力テスト前に「家庭学習協調週間」を設けたことで、広い範囲の学習にしっかり取り組むことができた。 ・小学生は、「家庭学習協調週間」に、ゲーム(メディア)や就寝時刻に関する意識が高まっていた。項目に関しては、その時の子どもの実態に合わせて変えていくとより良い効果が期待できるのではないか。 ・家読では、好意的な保護者からのコメントが多かった。本人が、兄弟に読んであげたなど、活動の幅が広がった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の「家庭学習協調週間」は、中学校で実力テスト期間が変更になり、決めた期間に実施できなかったため、3校同時に実施できるとよかった。 ・自学ノートのコピーで、取組の良さを伝えようとしたが、ただ掲示するだけでは良さを生かしきれない。来年度以降は、掲示方法や活動を検討した方がよい。また、自学の取組について、校内で共通理解を図っておくとよい。 ・家読への取組としては良い反応だが、読書の活性化ということに関しては、まだそこまでは至っていない。

<学習指導部会授業研究チーム>

【児童生徒の実態】

学習に対する関心が高く、友達と協力して学習に取り組むことができる。また、自分の考えを伝え合う、聴き合うことを通して、自分の考えを深めようとする姿勢が見られる。

【部会のねらい】

義務教育9年間の学びをつなぐ、揃えることで、安心感をもって学習に取り組み、教育的効果を向上させる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、道徳の板書データを蓄積、共有することで先生方の授業力向上の参考にする。また、板書だけでなく、児童生徒の「聴く力」「伝える力」等を高める工夫や発問等も加筆する。 ・国分寺地区小中一貫ランドデザインを教職員と確認し、児童に育成する力を意識した指導の展開を図る。 ・お互いにS&Uの研究授業を参観し、各校の学習指導に生かす。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が一方向的に発表するのではなく、友達の考えを聴きながら、対話し考えを深め発表する様子が見られるようになった。 ・道徳の板書に中心発問や児童の振り返り等を加筆したものを共有することで、さらに授業力の向上につなげることができた。 ・道徳の板書データを蓄積、共有したことで先生方の授業力の向上につながった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の「聴く力」「伝える力」「関わる力」を様々な教科から研究できると良い。 ・S&Uにおける研究授業の相互参観の推進や情報の共有を行うなど、授業力の向上に役立てる。

<学習指導部会特別支援チーム>

【児童生徒の実態】

見通しを持つことが苦手で、不安を持ちやすい児童生徒が多い。
障害の特性や個々の差は大きいですが、コミュニケーションについて課題のある児童生徒が多い。

【部会のねらい】

小中間の連続性のある支援や教育活動の確保を図り、児童生徒一人一人の持てる力を高め、自立や社会参加に向けた主体的な生活ができる力を育てていく。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた基本的なコミュニケーション能力の育成を目指した活動の実践報告を通して、プログラムを共有し、小中間での連続した指導につなげる。また、小中学校の教員間、児童生徒の間、学校と保護者間における情報交換を通して相互理解を深めることにより、小・中学校の滑らかな支援の継続を推進していく。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画に児童生徒間、学校と保護者間における情報交換の機会を位置付け、計画的に実施することができた。 ・中学3年生と小学6年生の交流を行い、中学生から生の声を聴くことができた。小学生は、中学校進学に対する前向きな心構えができた。中学生は、学習の成果を発表する機会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中間の連続性のある教育活動の実践を目指し、プログラムの共有や情報交換・情報の共有の方法について検討し、実施していく必要がある。

<児童生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

基本的な生活習慣は身に付いている。
同学年の中でも、大人びた考えや行動をする子もいれば、年齢より幼い考えや行動をする子もいる。

【部会のねらい】

異校種、異年齢の相手との交流を通して、お互いに対する理解を深めるとともに、時と場に応じたあいさつや言葉遣い、話の聞き方や伝え方など、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指す。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校生徒会と小学校の代表が話し合いの場を持ち、いじめ問題について話し合う。 ・小学校の「あいさつ運動」に中学生が参加し、小中学生の交流を深める。 ・小学生の質問に中学生が答える形で、中学校への不安を解消する。(今年度は対面を希望)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・8/1:オンラインによる小中代表者交流会を開催。いじめ防止に向けたスローガンを話し合い、決定した。「思いやりの心もち、個性を大切に認め合おう～十人十色の国分寺カラー～」というスローガンを掲げ、各校で児童生徒の目に見える場所に掲示することができた。 ・10月と11月:中学生が小学校に来て一緒に朝のあいさつ運動を行った。小学生は中学生の力強いあいさつをお手本とし、大きな声であいさつができるようになった。 ・中学生への質問会については、中学校のオリエンテーション内で実施した。小学生からの質問に対し、中学校からはスライドを交えての回答を受け、とても分かりやすい質問会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる話し合いは、やはり難しさがある。接続の不備や声の聞き取りづらさなど、活発な意見の交流、深まりがどうしても困難となってしまった。 ・あいさつ運動については、感染症の状況や天候などにより、日程の調整が難しかった。中学校の負担が大きいのので、もう少し短い期間で実施できるように検討が必要である。 ・オリエンテーションの場での質問会は、やや固い雰囲気の中での質問会となってしまう。小中学生のみの質問会の方が、本音が出る場となるため、検討が必要である。

<健康安全部会 健康づくりチーム>

【児童生徒の実態】

基本的な生活習慣が確立している児童生徒も見られるが、平日と休日で生活リズムが変わったり、勉強やメディア使用による夜更かしで睡眠時間が不足している様子が見られる。また、就寝時間が遅くなることで起床時間も遅くなり、朝食欠食の理由として「起きられない」と回答した児童生徒の割合が増加傾向にある。

【部会のねらい】

主に朝食や睡眠の面から、児童生徒の基本的な生活習慣の見直しを行い、健康課題解決に向けた取組を継続する。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のメディア調査や生活習慣見直しweekの結果を生かし、各校の健康課題に沿った取組を実践する。家庭への働きかけとして、保健(給食)便りに小中共通の健康課題コーナーを設け、連続した健康作りや意識付けを促す。また、保健委員会の児童生徒が作成した掲示物を他校で掲示し合うなど、児童生徒の自主性を促す活動を取り入れる。 ・保健教育では、健康診断の統計や睡眠とメディア接触に関する調査や分析を生かした指導を行う。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣見直しチェックを実施したことで、よりよい生活習慣を身に付けようとする意識が高まった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食欠食理由で「起きられない」と回答した人が、昨年度の7.7%から21.4%に増加。メディアの使用も含めた指導の必要性がある。

<健康・安全指導部会 体力向上チーム>

【児童生徒の実態】

各校の課題はそれぞれにあるが(国小:柔軟性 国東小:握力、持久力 国中:投力、筋力)新体力テストにおける数値は、平均から高い数値を示している。ただ、運動習慣が身に付かず、運動嫌いな児童・生徒も見受けられ、二極化が進んでいる。また、感染症の広まりによる影響で運動機会が制限され、基礎体力の低下が見られる。

【部会のねらい】

体力面での各校の課題を改善するような実践を積み重ね、基礎体力の向上を図る。
体力面での小中間のギャップを少なくする。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の体力面の課題に応じた実践を積み重ね、基礎体力の向上を目指す。各校の実践を紹介し合い、互いの例を参考にしながら、児童生徒の指導の充実を図る。 ・体力面での小中間のギャップを少なくするため、準備運動を揃える。またその際、柔軟やサーキットトレーニングなどを実践する。(国中体操を参考にする。)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の体力面に応じた課題に対する取組を行い、紹介し合うことができた。→特に、ICTの活用、補助運動の導入などお互いに参考になる実践をすることができた。 ・準備運動(国中体操)や柔軟性を高める運動の統一を図ることができた。→小中間の連携を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の課題に応じた実践を積み重ねてきたが、国分寺中学校区として共通で取り組める課題と実践があるとより良い。→走力(特に持久力)を来年度の重点課題とする。(下野市の体力向上部会の課題と同様なため)その際、持久走の練習内容や取り組み方を検討する。 ・今後、国中体操で導入されているサーキットトレーニングも部分的に統一していく。

<地域連携部会>

【児童生徒の実態】

地域のボランティア団体や公民館、小中学校が連携を図りながら活動を行うための体制を整備することができている。小中学生と一緒に活動を行う機会は昨年度より増やすことができている。児童生徒は、地域の方との交流に意欲的に取り組んでいる。

【部会のねらい】

地域学校協働活動を中学校区に広げ、小中一貫教育と関連させながら目指す児童生徒像の実現に迫る。また、昨年度実施した活動を継続し、内容の充実や定着を図る。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本の読み聞かせは12月に実施。小学校の図書館の本を活用することを検討している。 ・作品交流は国分寺公民館で実施する中学校の作品展示(10月)に、小学生の作品も一緒に展示し、学習の成果を地域に発信する。各学校でも実施する。 ・里山活動は国分寺跡で里山活動を実施する。集めた落ち葉で腐葉土作りを継続する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本の読み聞かせは12月に実施した。国東小の図書室の本を活用し、人権と関係のある内容の本を扱うこともできた。読み聞かせボランティアの方に、選書や読み方について指導していただき、地域との交流もできた。 ・作品交流は各学校の作品を各校で展示するだけでなく、公民館にも展示することで、学習の成果を発信する機会をたくさん設けることができた。 ・里山活動は小学生、中学生ともに、意欲的に活動に取り組むことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの活動に、国小の本を活用することができなかった。次年度は、国小の本も活用していきたい。また、本を読むだけではなく、小学生と中学生がコミュニケーションを図る場面がつけるとよい。 ・里山活動は、国中と国小での活動となった。国東小がどのような関わりをもてるか、今後検討していきたい。

成果と課題

◎成果

今年度は健康安全指導部会の中に「体力向上チーム」を新たに設け、各部会・チームそれぞれにねらいをしばった具体策を実践することができた。

具体的には、学力向上チームでは、家庭との連携を図った「家庭学習協調週間」「家読」の他、参考にさせたい自主学習ノートを掲示するなど、学び合いのための具体的な取組があり、授業研究チームでは、「道徳科の授業の板書の共有」をすることで授業力の向上を目指す取組ができた。特別支援教育チームでは、小中間での連続した指導につなげるための「小中の教員間と保護者間、学校間における情報交換」を中心に活動した。児童・生徒指導部会では、子ども未来プロジェクトを中心として「あいさつ運動」「いじめ防止について代表者のオンライン会議によるスローガン作りと授業実践」によって小中学生のふれあい活動を行うことができた。健康安全指導部会の健康作りチームでは、小中同内容の「生活見直しチェック」をすることにより、朝食の摂取率の向上などにつなげることができた。体力向上チームでは、「国中体操」やねらいを意識した運動の実施で連携を図ることができた。地域連携部会では、「読み聞かせ」、「里山活動」、「小中作品交流」など、本学区の特筆する活動が昨年度に引き続き行うことができた。特に中学生による読み聞かせは、地域のボランティアによるアドバイスにより中学生が目的意識を持ち取り組んでいた。

新型コロナウイルスで活動が制限される中ではあるが、どの部会、チームでもそれぞれ工夫して活動を計画してきた。国中学区を目指す児童生徒像の実現に近付くため、学習面や人との関わりにおいて主体性を大切に、健康に過ごすことができるように具体策を実践し、積み重ねることができている。今後も、様々な視点から小中一貫の活動を充実させていきたい。

●課題

・小中の教員による乗り入れ授業や、中学校の体験授業については、状況を見て来年度は実施の予定である。9年間の学びの連続性を意識した取組ができるようにしたい。

・国中学区の小中一貫教育について、学校評価による結果は職員の推進に対する肯定的な評価(90%以上)より児童生徒や保護者の評価(84%前後)が低い。活動の取組や成果等について、児童生徒や保護者に意義を理解していただくため、どのような手立てが必要かを検討する機会を設けること。

・今年度も代表者のみの会議になってしまったので、国中学区全職員が主体となって参加できる会議の持ち方や共通理解できるツール(R5はWinbirdの掲示板を利用)を適宜使って共有できるようにしたい。

・小中の交流が、生徒会や一部の児童生徒だけでなく、より多くの子どもたちが関わられるような活動を工夫したい。

活動の様子

保護者各位 第2回 学びあい 学力向上より

家庭学習協調週間を実施します！

今年も、例年より1か月となりました。前に触れる風の冷たさなどから、冬のはじまりを感じます。本日は、第2回家庭学習協調週間があります。第1回は、この4日間を全学年で書検より深い学習をもち家庭学習に取り組み、今後の学習につながる機会としていきたいと考えています。保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

1 第2回家庭学習協調週間実施日 11月29日(火)～12月2日(金)

2 目指す子どもの姿
 小学以下学年 自分で課題を見つけて、自主学習に取り組むことができる。
 上学年 自分にとって必要な課題を設定し、自主学習に取り組むことができる。
 中学校 自分にとって必要な課題を設定し、継続して自主学習に取り組むことができる。

3 実施内容
 (1) 学習のめあてを決める
 特に達成したい家庭学習のポイントを「めあて」として記入します。学年は、保護者の方と相談して決めてください。
 (2) ノーゲームデーを作る
 家庭学習協調週間のうち、1日以上はノーゲームデー(ゲームを見ない日)としてください。書検からゲームをやらない場合は、テレビの時間を減らすなどでも構いません。また、自主学習を終えたら、お手洗い、読書(親子読書)、親子での会話などの時間としていただけるとよいと思います。なお、家庭学習協調週間が終わった、その分ゲームの時間が増えるなどならないようにご配慮をお願いします。
 (3) 振り返りをする
 自分で立てた「めあて」やチェック項目に対して、振り返り記入します。「家庭学習協調週間」の取組を、今後の自主学習にも活かせると思います。これからも、自分で課題を設定して、自主学習に取り組めるように、保護者の方の励ましや声援も添えていただき、提出できるようにご協力ください。

冬休みには家庭「家読」が計画されています。中学3年生は前期の実施でしたが、親や兄弟など家族への読み聞かせをしたり、読んでおもしろかった本を紹介して保護者と話す機会につながったりと取組は種々でした。来週以降に応じてどのような形でも良いので、家族で楽しめ合う一つの機会にしてください。

国分寺東小学校

国分寺小学校

国分寺中学校

各クラスの道徳の板書



各クラスの道徳の板書

学力向上の保護者向け通知 (家庭学習協調週間と自主学習の紹介)



小学生による国中体操の様子



里山活動



読み聞かせボランティアとの読み聞かせ練習



中学生による小学校での読み聞かせ



作品交流 (公民館の展示)



小中あいさつ運動



いじめ防止スローガン 昇降口に掲示